

王子ホールディングス株式会社

<https://www.ojiholdings.co.jp/environment/biodiversity/>



《将来に向けた取組方針》

王子グループは、生物多様性保全等の森林の多面的機能を維持・拡大することを方針として、環境・社会・経済に配慮した持続可能な森林経営を推進しています。今後も約1億2千万tのCO₂を固定[※]する王子の森の整備・保全、雇用や産業の創出により、真に豊かで持続可能な地域社会に貢献する森林経営を行っていきます。

※ CO₂ 固定量 (CO₂t) = 2018年度末残存蓄積量m³×バイオマス拡大係数1.7×容積重BDT/m³×炭素率0.5×CO₂換算係数44 / 12にて当社試算 BDT: 絶乾重量トン

《具体的取組み事例》

王子グループの海外植林地の中で最大規模を誇るのが、ブラジルでユーカリの植林・パルプ事業を行っているCENIBRAです。同社は15万haの植林地と10万haの保護林を保有・管理しています。保護林はブラジルの森林法に従って生物多様性保全を目的としており、天然林のほか、急斜面や湿地帯などの水源周辺などの森林も伐採せずに残しています。保護林内で崩壊、野火等により、天然林が消失した場合は、自生の樹種を植林して環境の回復（天然林の再生）を図っています。

同社の植林地では様々な野生生物が観察されます。同社の生物多様性への取り組みを象徴するのが、560haを天然林保護地区(RPPN[※])として登録している「マセドニア・ファーム」です。ここでは1990年から、絶滅危惧種ムトウン（ホウカンチョウの仲間）を繁殖・飼育して自然に返す活動をNPOと協力して行っています。また、CENIBRAでは学校や地域社会に向けて森林および生物多様性に関する環境教育の実施や、森林内の動物相、植物相、水資源について定期的に広範なモニタリング調査を行っています。

※ RPPN: Reserva Particular do Patrimônio Natura

■ 植林地内の区画に天然樹種を植林



■ 植林地で観察された野生動物



持続可能な森林経営を実践しよう！